

# マップ 2

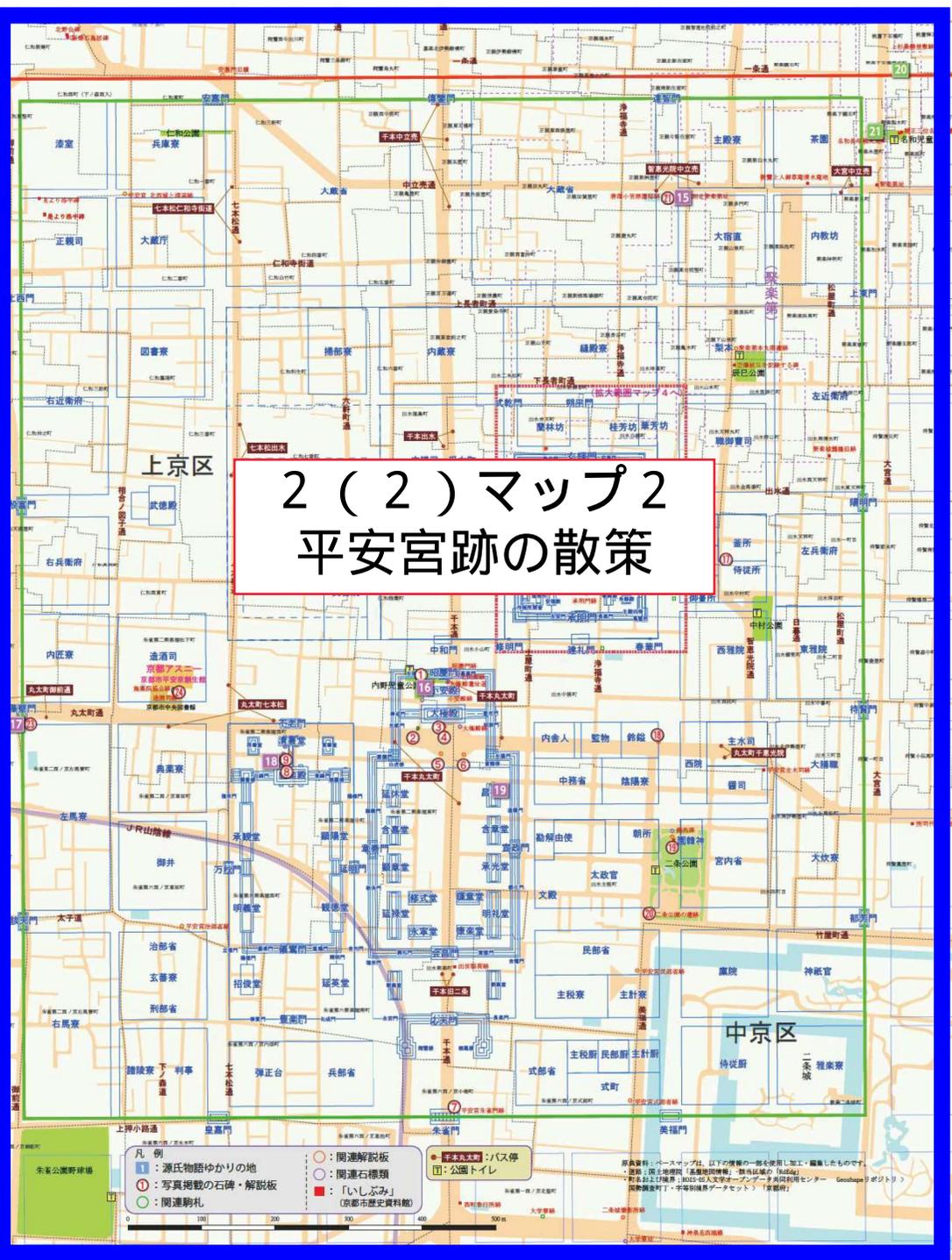
## 平安宮跡の散策

平安宮内の配置は、『延喜式』附図などの当時の様子を描いた図が残っています。これを手がかりに、実際に発見される遺跡などの調査成果を加えることで、今の地図に復元図を重ねることができ、平安宮跡内には大極殿跡を示す石碑や説明板をはじめとして、多くの箇所でその地の由来を記した解説板が設置されています。このうち、平安時代の主な写真のみを下に掲載しました。その他にも安土桃山時代の築山跡や、江戸時代の二条城に関連する石碑など、各時代のものがあちこちに設置されています。このマップをもとに平安宮跡と京都の歴史散策を楽しんでください。



### 2(6) 石碑・説明板等画像 (1~24)

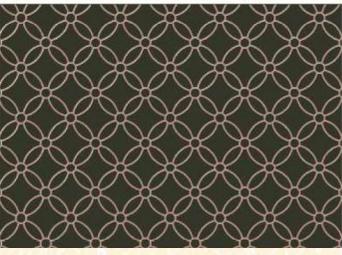
- ① 大極殿遺址  
大極殿は、朝堂院の正殿で、国家儀式を行うために欠くことのできない最も重要な建築物です。
- ② 朝堂院跡  
この地の調査で、朝堂院の建築物に使用された緑釉瓦などが出土しました。
- ③ 大極殿跡  
千本丸太町の交差点北西角の立会い調査で、大極殿の基礎跡が見つかりました。この表示は、大極殿の南端の位置を示しています。
- ④ 大極殿跡  
千本丸太町の北西角に設置されている大極殿の説明板です。付近の調査成果から大極殿の位置が明らかとなり、平安京条坊の復元が大きく前進しました。
- ⑤ 平安宮跡  
内裏や朝堂院、そして役所などが復元馬場跡を用いて復元されています。
- ⑥ 朝堂院跡  
千本丸太町の交差点は、大極殿のすぐ南にあたり、藤原氏の土間に位置しています。
- ⑦ 朱雀門跡  
平安宮の中央正面に置かれた門です。朱雀は南を意味します。
- ⑧ 豊楽殿跡  
この場所の発掘調査で、豊楽殿の基礎跡が見つかりました。
- ⑨ 清暑室跡  
豊楽殿の北側には清暑室が建てられ、廊下でつながっていました。
- ⑩ 内裏内郭回廊跡  
天皇の暮らし内裏は、築地をはさみ廊下がめぐらされた構造でした。
- ⑪ 蔵入町屋跡  
昭和62年(1987)、この場所で蔵入の宿所の建築物跡が見つかりました。
- ⑫ 内裏直南殿跡  
仁壽殿の東にあった南北棟で、御物を納める納殿が設けられていました。
- ⑬ 内裏昭陽舎跡  
内裏の後宮七殿五舎の一つです。清涼殿の北側に位置する最上位の観音です。
- ⑭ 内裏弘徽殿跡  
内裏の北側にあった天皇に關係する物品の保管場所です。
- ⑮ 蘭林坊跡  
仁壽殿の東にあった天皇に關係する物品の保管場所です。
- ⑯ 一本御書所跡  
世の中に流布する書籍を一部ずつ収めていたところです。
- ⑰ 内酒殿跡  
平成8年(1996)、この「内酒殿」と書かれた木簡が出土しました。
- ⑱ 中務省東限  
調査で中務省の東限を示す築地などが見つかり、その位置を示しています。
- ⑲ 鶴池伝説  
怪鳥鶴を源頼朝が退治し、その矢の鏃を洗ったと伝わる池跡です。
- ⑳ 二条公園の遺跡  
二条公園の整備に伴う発掘調査で見つかった遺跡の解説板です。
- ㉑ 大蔵省跡  
宮の北端部には大蔵省があり、建物は北側に建てられました。
- ㉒ 豊松原跡  
豊楽院の北側には広大な豊松原が広がっていました。
- ㉓ 藻壁門跡  
平安宮には14箇所に門が設けられ、その位置を示しています。
- ㉔ 造司倉庫跡  
平安京創生館前には発掘跡が保存されています。



## 2(2) マップ2 平安宮跡の散策



### 新版 平安京図会 史跡散策の巻



#### 史跡散策の巻

『源氏物語ゆかりの地』No.15~27・41~43

平安京図会とは、京都アスニー1階にある「京都市平安京創生館」の展示品について紹介した「復元模型の巻」、これらを通るための「史跡散策の巻」、源氏物語の舞台を示した「源氏物語ゆかりの地」の3巻を収録したものです。この「史跡散策の巻」では、1200年前に造られた平安宮や平安京の復元図を今の京都と重ねることができる主な石碑や解説板などの位置を示し、その写真を掲載しました。ここに紹介した以外にも多くの各時代に関連する石碑などが設置されています。

編集・制作 (公財)京都市生涯学習振興財団(京都アスニー) 〒604-8401 京都市中京区東葉菜園松下町9-2 (京都市中京区丸太町通七松西入) (075) 812-7222 (事業係)

協力 京都市考古資料館・京都市文化財保護課・京都市歴史資料館・(公財)京都市埋蔵文化財研究所

発行 山代印刷株式会社 出版部 〒602-0062 京都市上京区寺之内通小川西入 1a 075-441-8177

発行日 第1版 第1刷 2024(令和6)年3月31日

「古典の日記念 京都市平安京創生館」展示情報 <https://heiankyosouseikan.asny.ne.jp/>

写真：(輪左)平安宮内裏跡出土

平安京跡の石碑や解説板が、(1)～(30)の番号でマップ内にあり



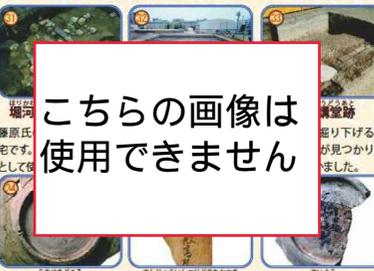
**2(7) 石碑・説明板等画像 (19~30)**



呼ばれました。型が展示されています。伝わっています。

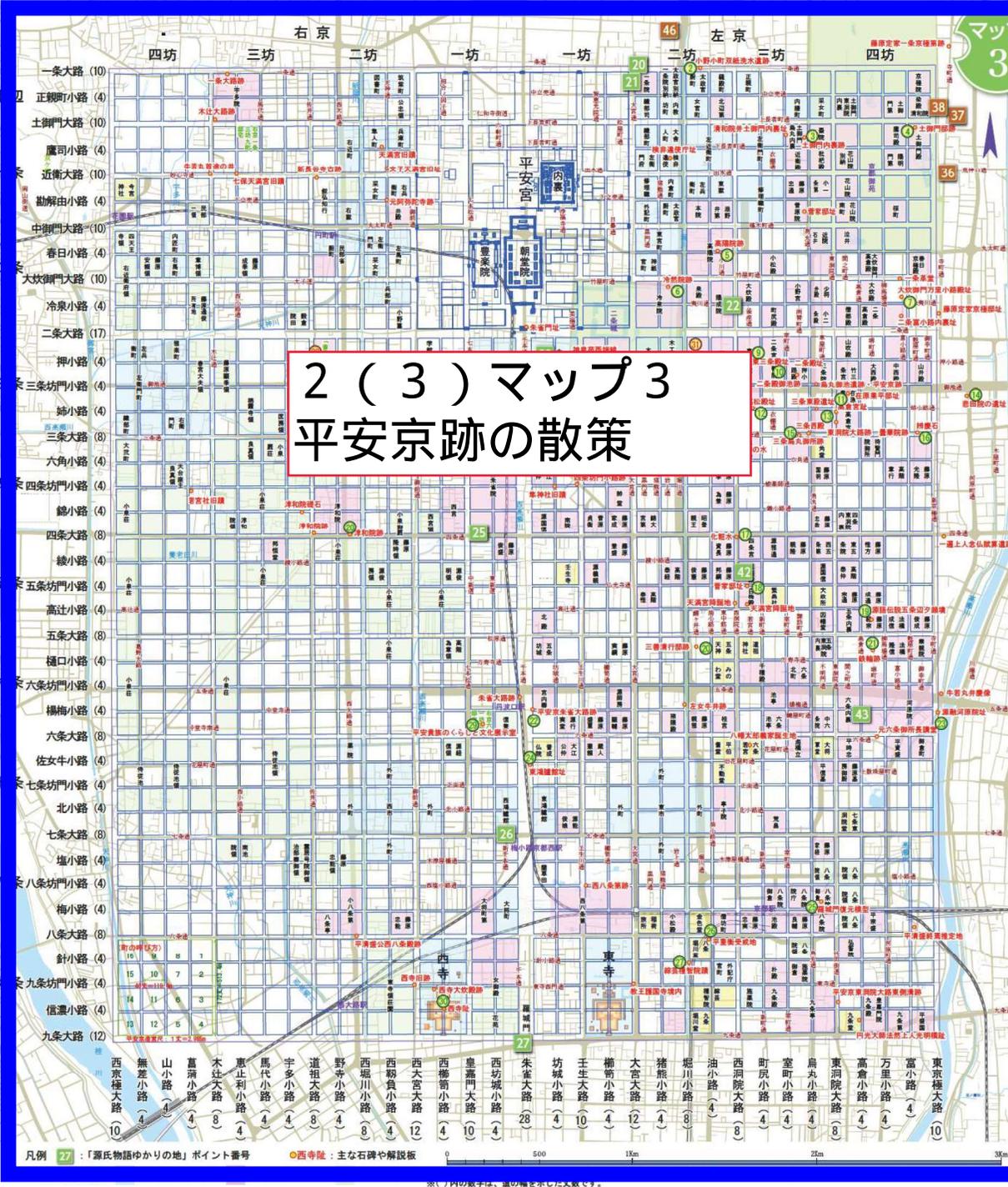
**平安京と東寺(教王護国寺)**  
 ~1200年不動の寺、平安京の定点~  
 都の入口である「羅城門」を中心に左右対象の位置に置かれたのが西寺と東寺です。都を象徴する大寺であるとともに、国家および都の安らかないとなみを願って造られた寺院です。  
 遷都してから30年後、嵯峨天皇は弘法大師空海へこの寺を与えました。以後、東寺は真言宗の根本道場となり教王護国寺と呼ばれることになりました。西寺が荒廃し姿を消していくなか、真言密教は人々に広く受け入れられ、再建を繰り返しながら今日にいたっています。  
 現存する寺域や金堂をはじめとする伽藍は平安時代当初の位置を継承しています。こうしたことから、1200年前に造営された平安京条坊の定点として位置付けられています。まさに今に伝わる多くの仏像などとともに都を守り続けていることとなります。

平安京跡発掘調査のようす (位置はマップ内に示す)



**こちらの画像は使用できません**

右京職の推定地から関係 三楽院と豊土器出土した遺跡や 池跡からは、高宮の遺跡が、建物跡 豊土器が出土し、職官 役所に関係する豊土器が数多く見つかりました。の存在がわかりました。



**2(3) マップ3 平安京跡の散策**

凡例 27:「源氏物語ゆかりの地」ポイント番号 ○西寺跡: 主な石碑や解説板

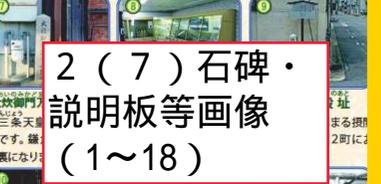
**平安京跡の散策**

平安京の大きさは、南北約5.2km、東西約4.5kmあります。この中を基盤の目録に大路や小路で区切っていました。一つの区画の大きさは約120m四方で一町と呼びます。造営から1200年経ちましたが、京都は平安京の区画を継承しながら現在にいたっています。東寺や多くの東園南北の道が平安京の形を今に伝えています。  
 京都の街中には、その地の歴史を示す石碑や駒札や解説板がいたるところに設置されています。記された内容も平安時代以降今日にいたるまで各時代のものがあります。そのためこのマップには、今の京都と平安京がどのように重なっているのかを示し、その中に主だった平安京時代のようすを記した石碑や解説板の位置をプロットしました。その写真を一部ですが掲載しました。(一部、鎌倉時代を含む)

27~29、33~34、41~43、45は、平安京内の「源氏物語ゆかりの地」解説板設置ポイントを示しています。



**2(7) 石碑・説明板等画像 (1~18)**



都の入口である「羅城門」を中心に左右対象の位置に置かれたのが西寺と東寺です。都を象徴する大寺であるとともに、国家および都の安らかないとなみを願って造られた寺院です。  
 遷都してから30年後、嵯峨天皇は弘法大師空海へこの寺を与えました。以後、東寺は真言宗の根本道場となり教王護国寺と呼ばれることになりました。西寺が荒廃し姿を消していくなか、真言密教は人々に広く受け入れられ、再建を繰り返しながら今日にいたっています。  
 現存する寺域や金堂をはじめとする伽藍は平安時代当初の位置を継承しています。こうしたことから、1200年前に造営された平安京条坊の定点として位置付けられています。まさに今に伝わる多くの仏像などとともに都を守り続けていることとなります。



右京職の推定地から関係 三楽院と豊土器出土した遺跡や 池跡からは、高宮の遺跡が、建物跡 豊土器が出土し、職官 役所に関係する豊土器が数多く見つかりました。の存在がわかりました。